

## 花きの栽培

## ガマズミ (ビバーナム)

ガマズミは、春の可愛らしい蕾からシックな秋の紅葉と果実まで、四季を通して切り花や庭木として楽しめる花木です。

今回は、魅力的なガマズミの特徴や種類、育て方について紹介します。

## 特徴

ガマズミ属 (ビバーナム属) は、北半球の温帯に分布し、国内には 16 種類が自生していて、山野で普通に見かける落葉性の樹木で、「ビバーナム」はガマズミの仲間の総称です。

ガマズミは、初夏 (5月~6月) に白い小花を密生させ、花には独特の香りがあります。秋に熟す果実は野鳥が好んで食べます。果実は酸味が非常に強く食用には向きませんが、実の表面に白い粉が吹いてくる晩秋になれば、甘味が増して生食できるようになります。

## 種類

## ○ビバーナム・スノーボール

日本に自生するガマズミの仲間、西洋カンボク (学名は「セイヨウテマリカンボク」) の園芸品種や変種全般を指す。「スノーボール」の名前で流通している。白いボール状の花が雪玉のように見えることから、「スノーボー



ル」と名付けられました。

## ○ビバーナム・ティヌス

常緑のため「トキワ (常盤) ガマズミ」という名で流通している。

白い散房花序をたくさん咲かせ、その後につくアメジスト色の実が魅力的で、フラワーアレンジメントなどで人気の品種。



### ○在来種

日本の山林に自生する品種も、自然風な庭園に似合うものが多く、庭木としてよく使われています。

ガマズミ、オトコヨウゾメは株立ちになり、涼しげな葉を茂らせ、小さな白い花と赤い実がつく。秋には紅葉も楽しめます。



### 植え付け

厳寒期を除いた 11 月～12 月、2 月下旬～3 月上旬の落葉期が適期です。

日あたりと水はけのよい場所を選び、有機質に富んだ土を好むので、土と等量くらいの有機物を投入して植え付けます。

### 施肥

花後の 5 月下旬～6 月と 11 月～12 月の落葉後に緩効性の化成肥料 (N-P-K=10-10-10 など) や有機質肥料を施します。

### 整枝・せん定

定植後年数が経過するにつれ、樹形が乱れ密植になり、ボリューム感のある高品質な枝が減少してきます。

ビバーナムの花芽は若い枝の先端に付くので、古い枝や伸びすぎた枝を選んで、付け根から切り落とします。また、株元に生えるひこばえは、地際から早めに切り落とします。

花物のビバーナム・スノーボールでは、花が咲き終わった 5～6 月のせん定(台切)になります。7 月下旬には、込み合った枝を整枝して風通しと日あたりをよくします。

また、実物のビバーナム・ティヌスでは、3 月上旬に地上部から約 1 m の高さまで強剪定(台切)をすることにより、切り枝が高品質になります。

(けい)